



北の大地とともに

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
CSRレポート2007

HOKKAIDO COCA-COLA
BOTTLING CO., LTD.
CSR REPORT 2007



ごあいさつ

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社並びにグループ各社は、「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業としての責任を果たすことで、北海道民のみなさまや北海道を訪れる人びとに信頼され、選ばれる企業グループとなることを目指しています。

そのためにも私たちは、生活者やパートナーのみなさまとの「対話」を通じてお互いの課題を共有し、私たちに何ができるのか、どのようなことが期待されているのかを明らかにし、その解決策を考えていくことで、社会に貢献できると

思っています。

当社グループは2006年度より「変化への挑戦～北の大地とともに～」をスローガンとする中期経営計画をスタートさせました。社会的責任を果たしていくことを経営の基盤として、すべてのお客さまの視点を大切にし、地域に根ざしたきめ細やかな取り組みを推進するとともに、いままでも、これからも北海道のみなさまとともに「持続可能な社会」を実現するために、積極的な活動を続けてまいります。

このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対する、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見やご協力をいただければ幸いです。



取締役社長

角野 中原

[経営理念]

私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献する。

[経営指針]

私たちは、

- 1 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
- 2 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
- 3 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

[社員行動規準]

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

北海道コカ・コーラグループ 中期経営計画

変化への挑戦 ～北の大地とともに～

私たち北海道コカ・コーラグループは、道産子企業として地域社会に信頼され、ともに発展していくことを目指します。

- お客様の視点に立って、製品・サービス・プロセスをつくります。
- 地域好感度が高く、わくわくするグループを目指します。
- 人と人をうるおし、元気で豊かなまちづくりに貢献します。

北海道に「さわやかさと潤い」を。

プロローグ

さわやかで健康的な
社会を目指し、
人と人をうるおす活動を
続けていきます。

北海道コカ・コーラボトリング株式会社は1963年に創業し、北海道のみなさまに「さわやかさと潤い」を提供し続けてきました。

北の大地とともに歩んで44年。私たち北海道コカ・コーラボトリングのグループ社員のほとんどが北海道生まれ、さらにコカ・コーラ社製品には北海道産のビートや牛乳が広く使われており、北海道の経済とも深く結びついています。

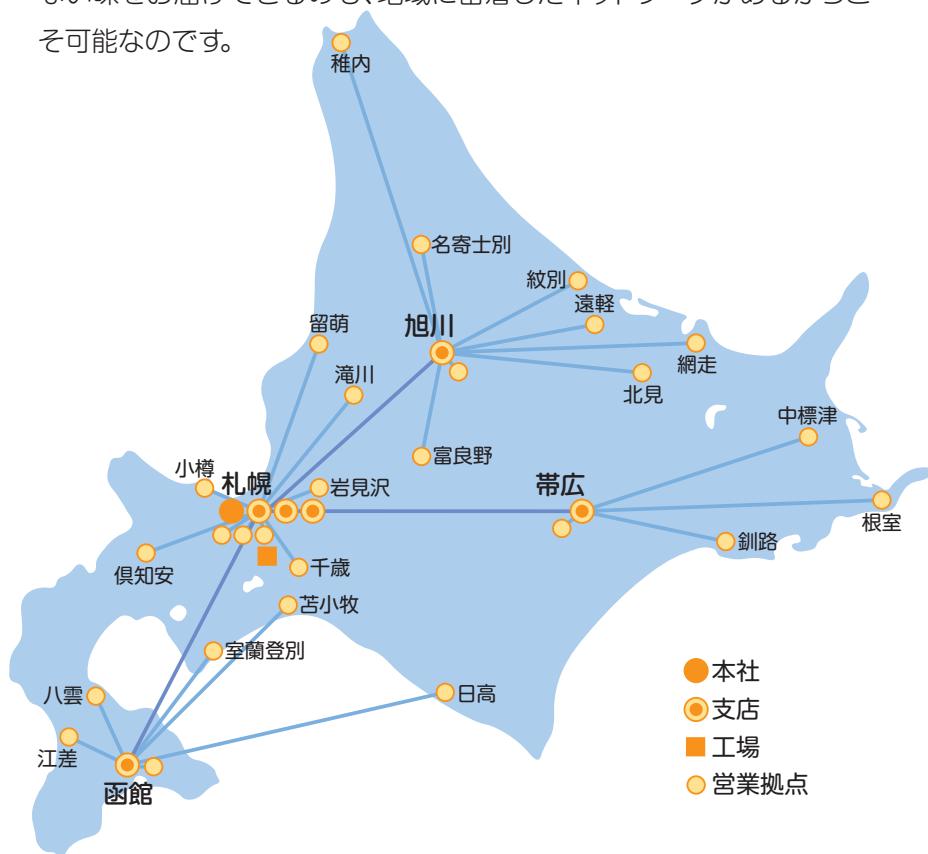
私たちは、コカ・コーラにかかわるすべての人に対して「わくわく胸躍る楽しさ」とともに、さわやかで健康的な暮らしと、より豊かな社会を実現するため、一人ひとりが北海道の多くのお客さまとのコミュニケーションを大切にしていきます。私たち北海道コカ・コーラグループは、北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業として、地域から信頼され、地域に認められ、地域とともに発展していく企業を目指していきます。



人と人をうるおす
Coca-Cola

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリングのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に広く全道各地に拠点網を形成しています。世界でも、日本でも、そして北海道のみなさまにも、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



CONTENTS

- 01P [トップメッセージ] 北の大地とともに。
- 03P [フロアーク] 北海道に「さわやかさと潤い」を。
- 05P [最新トピックス] 地域の明日を見つめて。
- 07P [自動販売機ダイジェスト] もっと、お役に立つ自動販売機へ。
- 09P [地域社会への貢献]
● 地域とのふれあいを大切に。
- 11P ● 地域のこころを結んで。
- 13P ● 地域にさわやかな笑顔を。
- 15P [お客さまの満足]
● 安全と安心をお届けするために。
- 17P ● 「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。
- 19P ● さわやかさをお届けするために。
- 21P [社員との対話]
風通しがよく達成感のある企業風土づくり。
- 23P [企業スタンス]
企業としての信頼性を高めるために。
- 25P [地球環境への取り組み]
● 地球環境の明日を見つめて。
- 27P ● 生産からリサイクルまでの流れ。
- 29P ● リサイクルによる環境保全活動。
- 31P ● 北海道のきれいな空気と水を求めて。
- 33P ● 効果的な環境保全活動を継続しています。
- 35P ● 広がる環境コミュニケーション。
- 37P [エピソード]
北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

「防犯ほっとインフォメーション」がスタート!

安全・安心な街づくりを目指して、当社は北海道警察（札幌方面中央警察署）との協働事業「防犯ほっとインフォメーション」がスタートしました。この事業は、自動販売機の電光掲示機能を活用して、

警察署からの事件情報や防犯啓発に関する呼びかけなどの情報を発信するもので、当社グループが北海道とともに推進する「子どもの安全を見守る運動」の補完とあわせ、広く地域のみなさまに防犯意識の高揚を図ることを

目的としています。2007年3月、札幌地下鉄大通駅コンコースのコカ・コーラブースで、中央警察署長、札幌中央防犯協会連合会長とともに点灯式を行いました。今後は、札幌市の中心部から順次運用を拡大していきます。



自動販売機に警察署からのメッセージが表示されます



地域社会の安全から環境保全活動の支援、
そして品質管理の向上まで。

ここでは本レポートの対象期間をこえて、

2007年の最新の話題をお届けします。

全社で[ISO9001:2000]の 認証を取得

2007年2月、当社は全社（製造・販売・管理部門）を対象として、品質マネジメントシステムの国際標準規格「ISO9001:2000」の認証を取得しました。製品の品質や安全性はもちろんのこと、お客さまの一層の満足度向上を図るため、グループ全員で業務やサービスを含めた経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。



知床世界自然遺産の環境保全活動を支援 ～斜里町へ108万円を寄付～

2007年5月、斜里町との協定に基づき、当社自動販売機をご利用いただいたお客さまからお預かりした2006年度の寄付金として1,082,575円を贈呈しました。この寄付金は、同町の「知床世界自然遺産の保護管理と適正利用基金」に積み立てられ、知床世界自然遺産の環境保全活動に活用されます。

当社では、斜里町に引き続き、知床を擁する羅臼町とも同様の協定を2007年5月に締結して、地域協働による知床の環境保全活動を推進していきます。



2年連続交通事故死 全国ワーストワン返上に寄与

北海道警察では「交通事故死全国ワーストワン返上」に向け、各自治体をはじめ関係機関や団体等の協力のもと、交通安全の取り組みを続け、

2005年・2006年と2年連続で全国ワーストワンを返上しました。当社グループでは、社員一人ひとりが安全運転に努めるとともに、

角野社長が「札幌地方安全運転管理者事業主会豊平支部長」として地域の安全活動に積極的に参加していることが評価され、昨年に引き続き札幌方面豊平警察署より感謝状が授与されました。



「シーニックナイト2007」に 協賛・参加



「灯りが繋ぐ雪のみち」をテーマに、シーニックバイウェイ北海道の「支笏洞爺ニセコルート」をキャンドルの灯りでむすぶ冬のイベントで北海道開発局と各自治体が後援しています。当社は北海道の魅力アップを目指したこの活動を応援するとともに、2月10日のキャンドル斉点灯日には、4事業所が参加しました。



本社前でのキャンドル点灯風景



もっと、お役に立つ自動販売機へ。

お役に立つ自動販売機へ
 ありがとうございます。

私たちは今、もっと地域社会の

住所表示のステッカーを貼付しています。

屋外の自動販売機約33,000台に「住所表示」を行うことで、通行人が緊急時に通報する際の場所の特定ができるよう取り組んでいます。



地域の防犯啓発に協力しています。

八雲営業所と岩見沢営業所では、警察署と連携して防犯を呼びかけるポスターを自動販売機に掲示しています。その活動が評価され、警察署から表彰状が授与されました。



環境に配慮した自動販売機を導入しています。

コカ・コーラでは、2020年までにフロンを冷媒に使用しない地球にやさしいノンフロン型自動販売機に、全面的に切り替えることを目指して、段階的に導入を進めています(当社エリアでは97台導入)。



省エネルギーを推進しています。▶31P参照

環境負荷低減に向けて、メーカーと共同開発した省エネ自動販売機を導入しています。

知床世界自然遺産の環境保全活動を応援しています。

▶6・10P参照 斜里町との協働事業として、町内に設置する自動販売機の売上金の一部を知床世界自然遺産の環境保全活動に寄付する取り組みを推進しています。



自動販売機はリサイクルされています。▶29P参照

耐用年数の経過等により廃棄する自動販売機は、金属類を中心にリサイクルを推進しています。





地域防災力強化のご支援。

▶10P参照 電光掲示板を搭載した自動販売機(災害対応型自動販売機)を、北海道をはじめ自治体との協定に基づき設置しています。この自動販売機は、自治体からの遠隔操作により、災害発生時には緊急情報・避難情報などの発信や機内在庫飲料の無償提供を行うとともに、平常時には防災情報・地域情報を発信して、北海道との防災協力協定に基づき地域防災力の強化を支援していきます。



現在19台が運用されています。



「道の駅」で情報発信！「おしらせ道ねっと」の運用。

▶10P参照 「道の駅」では、災害対応型自動販売機を利用して、道路利用者や地域住民に対して、自治体から道路情報や災害情報、地域のイベント情報などを発信するほか、災害発生時には機内在庫飲料の無償提供を行う「おしらせ道ねっと」の運用を始めました。この取り組みは、自治体および国土交通省北海道開発局との協定に基づいて、後志地区を中心に16台が運用されています。



ケータイで飲料が買えます。

携帯電話で飲料が購入できる次世代型自動販売機(シーモ)を積極的に展開しています。おサイフケータイに対応し、

スピーディーにキャッシュレス購入できることが特徴で、お得なポイントが貯まるプログラムや着メロ・ゲームなど豊富なデジタルコンテンツも用意されています。また、搭載する液晶画面では、操作方法を説明するほか映像表示も可能です。



観光マップを掲示しています。

地域の観光名所が一目でわかる地図を掲示することにより、その特色や現在地の確認などに役立てていこうという試みを実施しています。



地域とのふれあいを大切に。

北海道とともに「子どもの安全を見守る運動」を推進



寄贈するとともに、参加車両が一堂に会しての出発式が2006年7月に北海道庁で行われました。現在、約3,000団体・13,000台の車両が参加する、まさに全道に広がる「道民運動」へと拡大しています。当社もグループをあげて積極的に運動参加。全道の事業所と車両(約1,200台)にポスターやステッカーを掲出して、子どもの安全を見守っています。



当社グループも参加した北海道庁での出発式

子どもたちが狙われ被害を受ける犯罪が激増している昨今、当社は「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって「子どもの安全を見守る運動」を推進していくことを北海道へ政策提案し、道民運動として採択されました(北海道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進する「民間企業等とのタイアップ事業」第1号)。この採択に基づき、当社が企画・デザインした運動のポスター(10,000枚)と車両ステッカー(11,000枚)を「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議」(会長:高橋はるみ北海道知事、事務局:北海道・北海道警察・北海道教育委員会)へ



運動開始以来当社グループでは、怪我をしたり道に迷った子どもや年寄りを保護した活動が4件報告されています。



角野社長から高橋知事への寄贈



車両ステッカー



啓発ポスター

安全で安心な
社会の確立を目指す
地域に、その世界に、
ゆるやかな「潤いの種」を
まかせよう。



北海道と「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」の締結(2006年12月)

北海道に本社と生産・在庫の機能を持ち、道内全域をカバーする物流網を有する当社グループの資源を、地域の防災力強化に活用していただきます。災害時における飲料の提供等とはもとより、平常時から防災意識の高揚による地域防災力強化を図るためのさまざまな協力活動を行います。なお、北海道が防災に関して民間企業と協力協定を締結するのは初めてのことであり、この締結によって道内の各市町村においても同様の協定を締結したものとみなされます。今後は北海道全地域の防災パートナーとして、積極的な取り組みを推進します。



北海道との防災協定調印式



釧路市との協定調印式 恵庭市との協定調印式 白糠町との協定調印式

国土交通省北海道開発局との協定

北海道の活力ある地域づくりを目指して、2006年9月、国土交通省北海道開発局とお互いの可能なツール等を用いて、道路と地域の安全や地域振興支援などの取り組みを協働することを目的とした包括協定を締結しました。この最初の取り組みが、後志地区における「おしらせ道ねっと」です。これは災害対応型自動販売機の電光掲示機能を活用した、「道の駅」での自治体による道路情報や災害情報・地域情報などの発信です。そのほか、シーモ自動販売機の液晶画面を活用して「シーニックバイウェイ北海道」の景観映像の放映など、多彩な協働事業を推進しています。



斜里町との協定

世界自然遺産に指定された知床の環境保全活動を支援するため、2006年4月、斜里町内に設置している自動販売機の売上金の一部を、斜里町が行う知床の環境保全活動に寄付する協定を締結しました。あわせて、知床世界自然遺産指定地域内において、景観に配慮した自動販売機やノンフロン型自動販売機の設置を推進するほか、同地域へ立ち入る配送車両についてハイブリッド車両を採用するなど、環境への配慮を進めています。



地域のこころを結んで。

クリスマスの贈り物が 累計200万本を突破!

1968年から毎年、道内各市町村の福祉施設にクリスマスプレゼントとして製品を寄贈しています。2006年度は、約520箇所の福祉施設へ合計約6万本の寄贈を行い、1968年からの累計は200万本を超えました。永年の支援に対して、恵庭市や苫小牧市より感謝状を授与されました。

私たちはいままでもこれからも
北海道のみなさまに信頼され、
みなさまの「声」に
支えられて歩み続けます。



福祉施設への製品の寄贈と感謝状の授与

さまざまな福祉活動

1980年から「社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会」に対する支援活動を行っており、2007年2月には札幌肢体不自由児者父母の会より感謝状を授与されました。

そのほか2006年4月には、北海道立生涯学習推進



札幌肢体不自由児者父母の会より
感謝状の授与



北海道立生涯学習推進センター
への視聴覚教材の寄贈

センターに、16mm映写機や映画フィルムなどの視聴覚教材を寄贈するほか、2006年7月にはジャワ島中部地震被災地への寄付金活動を行うなど、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

国際交流に特別協賛

毎年夏休みの4日間、北海道新聞社主催の「北海道青少年国際交流プログラム」(International Youth Exchange in Hokkaido: 略称IYE)が開催されています。IYEは、アメリカ・中国・タイなど海外9カ国の青少年と道内の中学生が交流し、友情を深めることを目的とした国際交流活動です。当社は、特別協賛企業として、IYEを支援するとともに、コカ・コーラステージでのパフォーマンスや札幌工場の見学などを実施しています。



地元北海道を応援する 「北海道限定販売」の新製品

世界自然遺産に登録された「知床」の風景2種類を描いた「ジョージア サントスプレミアム」を2006年6月に発売しました。また、広大な土地で育った良質な北海道産の牛乳をたっぷり使用した「じょうずに野菜 北海道ミルクと野菜」を2006年9月に発売しました。両品とも北海道限定製品として、北海道が展開する「北海道イメージアップキャンペーン」に参加するとともに、北海道の観光や地産地消を応援しています。

なお、2007年1月には、ナチュラルミネラルウォーター「オロフレ山溪水」を加えた3品が、札幌商工会議所の「北のブランド」に認証されました。



※「北のブランド」とは札幌商工会議所による「ものづくり産業」の支援として、札幌市内会員企業をはじめとする地域の製造業者がこだわりをもって開発した製品や独自の技術を認証するものです。

安全運行への取り組み

幸楽輸送、「Gマーク」「グリーン経営認証」を取得!

グループ会社の幸楽輸送(株)では、2006年1月に社団法人全日本トラック協会が認定する安全性優良事業所の「Gマーク」を全事業所で取得するとともに、2006年11月には、交通エコロジー・モビリティ財団が認定するトラック運送事業者における「グリーン経営認証」も取得しました。同社では、事業所や車両に「Gマーク」や「グリーン経営認証」の認定マークやステッカーを掲示して、お客さまに向け積極的に安全運行や環境保全をPRしています。



Gマーク



グリーン経営認証

地域の安全・安心を応援

八雲営業所では2005年4月から、岩見沢営業所では2006年12月から、地域の自動販売機に防犯を呼びかけるポスターを掲示しています。そのほか旭川営業所では、「春の交通安全運動」で安全運転の呼びかけに参加(2006年4月)、江差営業所では「自主防犯パトロール・フォーラム」に参加(2006年10月)、函館営業所では「みんなで築こう、安全で安心な大地」総決起大会に参加(2006年10月)、札幌第一営業所では歳末特別警戒出発式に参加(2006年12月)など、全道各地で地域の警察署と連携して安全・安心なまちづくりを応援しています。



歳末特別警戒出発式へ参加

地域にさわやかな笑顔を。

教育支援活動

国際性豊かな青少年を育てるために英語の普及を推進する「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」の開催や、経済的理由で大学進学が困難な学生に奨学金を支給する事業である「日本コカ・コーラボトラーズ育英会」の北海道支部として大学在学の期間、返済義務のない奨学金を支給しています。なお、当育英会は2006年で発足40周年を迎え、奨学生も全国で1,940名、北海道では78名となっています。

私たちは
企業市民として、
教育やスポーツ、地域活動を
もみりして応援して
いきたいですね。



高円宮杯全日本中学校英語弁論大会



奨学生募集ポスター

インターンシップ

学生が企業において実習・研修的な就業体験ができる「インターンシップ」の受け入れを行っています。当社では、これを産学協働の人材育成の場として捉え、参加学生の就業意識や社会貢献意識の向上を支援しています。
(2006年度実績:大学生6名、高校生3名、中学生6名)



職場体験学習の様子

スポーツ支援活動

コカ・コーラでは、2006年のサッカーW杯ドイツ大会に派遣する「ジュニア親善大使」を募集し、北海道からは2名の中学生が選ばれ、対ブラジル戦で日本国旗を持って入場する「フラッグベアラー」として大役を果たしました。また札幌市内の児童を対象に、サッカーを通して環境保全活動に楽しく取り組んでもらうイベント「かんきょうみらいカップ」を応援するほか、社団法人日本一輪車協会への支援活動や全国高等学校総合体育大会への協賛など、スポーツを通じた心身の健全な育成活動を支援しています。



サッカーW杯ドイツ大会ジュニア親善大使



かんきょうみらいカップ2006



さわやか一輪車競技大会



コカ・コーラ杯クラブバレーボール



オリンピックデラン

水泳・北島選手が1日体育教師に

2006年8月、アテネ五輪の水泳金メダリスト・北島康介選手による「2006 FROG TOWN MEETING」が札幌市内の小学校で開催されました。1日体育教師となった北島選手は、水泳教室などで生徒たちと楽しいひとときを過ごすとともに、「夢を持つことの大切さ」を熱く語りました。



地元企業・地域イベント支援

2003年より北海道のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」とスポンサー契約を結ぶほか、コンサドーレマーク入り自動販売機(ドーレBOX)を設置して、その売上金の一部を運営資金として協賛しています。また、2007年3月からは北海道日本ハムファイターズとスポンサー契約を結ぶなど、地元球団を積極的にバックアップしています。このほかにも、冬の北海道を代表するイベント「さっぽろ雪まつり」への協賛をはじめ、夏の札幌を華やかに彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援するほか、地元の札幌国際大学と協働しコカ・コーラ札幌国際大学チームとして参加するなど、地域に密着した活動を展開しています。



ドーレBOX



さっぽろ雪まつり会場風景



YOSAKOIソーラン祭り
コカ・コーラ札幌国際大学チーム

新鮮な製品をお届けするために 鮮度管理に取り組んでいます。

新鮮でおいしい製品をお届けするため、全社に「フレッシュネス委員会」を設置し、お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の根絶に取り組んでいます。特に工場倉庫出荷から自動販売機へ充填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウォーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。

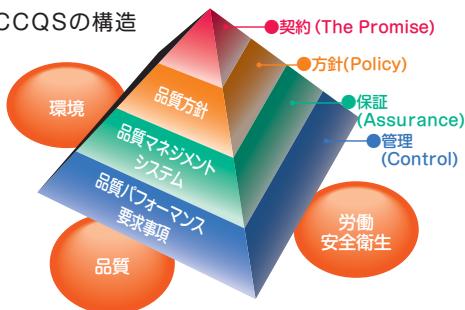


札幌工場

製造部門の取り組み

札幌工場は、コカ・コーラシステム独自の総合品質保証システムであるTCCQS (The Coca-Cola Quality System)によって工程管理・監視を行い、製品の安全性と品質の向上を図っています。さらに2007年2月、全社(製造・販売・管理部門)で

■TCCQSの構造



ISO9001:2000を取得したことにより、今後はTCCQSとISO9001:2000によって品質保証システムを運用していきます。

※TCCQSには、ISO9001(品質マネジメントシステム)、HACCP(危害分析重要管理点方式による管理)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の要求事項が含まれています。また札幌工場は環境マネジメントシステムの認証取得へ向け準備中です。

1) 新鮮でおいしい製品を飲んでいただくために

最新機器を使って製品検査を行うほか、機器による検査がむずかしい「味覚」については、適性試験に合格した複数の官能検査士による味覚検査を実施して、高品質な製品づくりに努めています。



品質管理

2) 徹底した製造設備のメンテナンス

良好な製造設備の状態を維持するため、定期的なすべての設備を停止して、機械・装置等の整備や洗浄・殺菌を行うとともに、測定機器類の校正など、徹底したメンテナンスを行っています。

3) 水の品質保証

水源(地下水)の環境を保全し、良好な水質を保っています。また、工場で用いるすべての水について、食品衛生法・水道法をはじめとした全150項目以上の定期的な分析を実施し、その安全性を保証しています。

わたしたちはすべてのプロセスにおいて、
徹底的な品質管理に努めています。



4) 業務改善を積極的に推進

機械効率の向上や製品ロスの減少を目指し、業務改善を積極的に推進しています。小さなことから規格・基準に照らし合わせ「ムリ・ムダ・ムラ」がないかを検証し、改善提案活動を推進することにより、作業方法の変更や標準化、作業負荷の軽減を図っています。

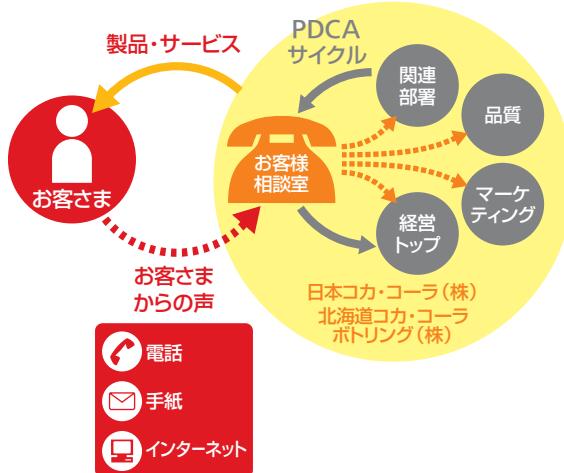
北海道コカ・コーラボトリング株式会社 [品質方針]

1. 関連法規を遵守し、生活者やお客さまにさわやかさと潤いを提供する。
2. 安全・安心および環境に配慮した製品を提供し、生活者やお客さまから高い満足と信頼を獲得する。
3. 規格・基準を遵守し、高品質および低コストの生産に努める。
4. 生活者やお客さまとダイレクト、リアルタイムなコミュニケーションを図り、質の高いサービスを提供する。
5. さわやかな製品を提供するためのビジネスマナーに努める。
6. 生活者やお客さまの要求に適合した製品の提供と品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を行う。

品質方針達成のため、会社および各部門の品質目標を設定しレビューするとともに、会社全体に周知徹底する。

誠意をもったお客さまへの対応

当社の窓口である「お客様相談室」には、さまざまなお指摘・ご提案・お問合せなどが寄せられています。私たちはお客さまからの声を真摯に受けとめることが第一と考え、誠意をもった対応を心がけています。また、お客さまとの双方向コミュニケーションを大切に、安全で安心していただける製品、サービス、情報の提供に努めています。



お客様
相談室

☎ 0120-308509

(土日祝祭日を除く9:30~17:00)

🌐 URL <http://www.cocacola.co.jp>

お客さまの
満足

「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。

ようこそ! 札幌工場へ。

札幌工場では見学ツアーを実施しています。当社の「製品ができるまで」を案内員がわかりやすく説明するほか、製造設備や大型立体自動倉庫の迫力ある動きが間近で見学できます。

大型立体自動倉庫

当社の立体自動倉庫は、約2万棚を有する高さ31メートルの倉庫棟と荷さばき棟からなる大型設備です。2002年11月に本格稼動し、約200万ケース収容可能な国内のコカ・コーラボトラー最大の規模です。



環境保全・社会貢献への取り組み

見学コースでは製造工程のほか、当社の環境への取り組みや社会貢献活動についても、ご紹介しています。また、希少なクラシック自動販売機も展示しています。



みなさまの
より身近なコミュニケーションを願ひ、
私たちは工場見学ツアーを
実施しています。みなさまのお越しを
心からお待ちしております。

工場見学者数

見学者	2005年	2006年
保育園・幼稚園児	1,619人	2,510人
小学生	1,817人	2,451人
中学生	467人	676人
高校生	139人	355人
大学生	256人	313人
一般(団体・個人)	2,190人	3,030人
その他	59人	125人
合計	6,547人	9,460人



ツアーのご案内 (所要時間 約60分)

記念撮影/15分

概要説明・ビデオ上映/20分

製造工程・立体自動倉庫見学/25分



工場見学パンフレット

冷えたコカ・コーラと記念品のほか、記念撮影もご用意していますので、たくさんのお越しをお待ちしています。

みんなの食育 Qoo(クー)も応援!

コカ・コーラでは、食育支援活動の一環として、子どもたちのバランスのよい食生活を推進するために、医学博士・坂本元子先生(和洋女子大学副学長)の監修により、NHK教育番組「おかあさんといつしょ」の第10代目体操のお兄さん・佐藤弘道さんが考案した“ひろみちお兄さんとクーの「ちゃんとたべよう体操」”(通称:「クー食育体操」)を開発しました。これは、子どもが楽しみながら「食べること」についての正しい習慣や知識を身につけてもらうことを目的とした体操で、当社では、2006年7月より園児を対象に、クーが幼稚園や保育園へ訪問するほか、工場見学の中で、子どもたちと一緒に「クー食育体操」を踊って、食育を応援しています。



「お母さまの声」にお応えし、
7月～9月は土曜日も
見学いただけます。



札幌工場見学のお申し込み方法



工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。

- 見学できる時間 毎週月曜～金曜日(午前10:00～12:00・午後1:30～4:00 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。 ※7～9月は土曜日も見学いただけます。
- 所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます) お申し込み・お問い合わせ
- 場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 **011-888-2091** (広報部)



お客さまの
満足

さわやかさをお届けするために。

お客さまの「声」に支えられて

2006年6月、当社は北海道新聞に企業広告を掲載し、幅広くご意見・ご要望を募集しましたところ、実に1,360件を超える「声」をお寄せいただきました。この貴重な「声」の一部をご紹介するとともに、当社のこれから取り組むべき内容をご報告します。

お客さまの「声」

北海道産のビートや牛乳を使っているんですね。良いことだと思います。牛乳の廃棄は悲しいことです。是非活用してドリンクを作ってください。

当社の取り組み

北海道の企業として主要商品であるジョージアコーヒー等には北海道産のビートやミルクを使用することは勿論のこと、北海道産の牛乳をたっぷり使った新製品「じょうずに野菜 北海道ミルクと野菜」をみなさまにお届けします。

お客さまの「声」

8歳の娘も主人もみんなコカ・コーラ好きです！工場見学があることを今回の広告で知り是非いつか行ってみたいです。平日しかやっていないのが残念です。

当社の取り組み

札幌工場では、創業時からコカ・コーラを身近に感じてもらうために工場見学を実施しています。毎週祝祭日を含む月曜日から金曜日まで実施していますので、是非お気軽にお立ち寄りください。なお、2007年7月から9月の期間は土曜日も実施することとしました。事前予約制となっておりますので、当社広報部(011-888-2091)までお電話ください。当社ホームページにも詳細のご案内がございます。

HPアドレス <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/factory/visit.html>

お客さまの「声」

自分が幼い頃から良く目に味わったのが今回の広告にも出ているガラスびんのコーラでした。初めて飲んだ時の衝撃はいまでも忘れません。又、今回の広告で企業としての社会貢献活動にも積極的に取り組んでいることを知りました。きっと日本人なら一度は味わったことのあるこのボトルを復活して欲しいと願っています。

当社の取り組み

ガラスびんのコカ・コーラは、びんの回収が可能な一部のホテル、レストラン、娯楽施設などで販売しています。これからも多くの場所でごみなさまにご愛飲いただけるように努めます。

私たちが、これからも、さわやかでおいしいコカ・コーラ製品をお飲みただけの楽しみ、さまざまな活動を展開していきます。

いままでも、これからも、北の大地とともに

人と人をうるおす

Coca-Cola

北海道コカ・コーラドリンク株式会社



札幌駅南口で「CokeExpo」を開催

全国の主要都市を巡回する「CokeExpo2006」は、コカ・コーラ生誕120周年を記念し、その歴史と生み出してきた多様なカルチャーをコカ・コーラを飲みながら体験できるイベントです。北海道では札幌駅南口広場にて2006年7月に2日間開催され、約2万人のお客さまにご来場いただきました。





グループ丸となった「CSoLハピネス大作戦!!」



2007年4月、当社は高品質な製品の提供とあわせて、さわやかさをお届けできる売場づくりを目指した「Coke Side of Life ハピネス大作戦」を海外のコカ・コーラ関係者ととともに、道内各地で実施しました。当社の角野社長はもとより、日本コカ・コーラ(株)のセイヤー社長が、みずから自動販売機の清掃活動や品揃えの見直しを手がけるなど、お客さまに安心して利用していただけるための活動をコカ・コーラグループ丸となって展開しました。



空港ロビーに「コカ・コーラ リフレッシュコーナー」オープン

2006年8月、新千歳空港2階の出発ロビーに憩いのスペースがオープンしました。このコーナーには、訪れるみなさまに「さわやかさと潤い」のひとときを楽しんでいただけるよう、次世代型自動販売機(シーモ)やスナック菓子が購入できるフード自動販売機を設置のほか、映像表示やコカ・コーラの歴史などを紹介したパネルを展示しています。



クリスマス電車を運行



札幌市の路面電車で、2000年から毎年実施しているコカ・コーラクリスマス電車は、通常のコカ・コーラ電車にクリスマスをイメージした装飾を施し、コカ・コーラとクリスマスのつながりを一層深めています。電車はクリスマスまでの2週間、初冬の札幌で運行しています。



「自律型」の人材育成を目指します。

日々複雑化・多様化する社会の中では、製品やサービスもお客さま一人ひとりのニーズに合わせて柔軟に対応していく必要があります。このような状況で求められる社員像は「自ら考え行動し、チャレンジし続ける社員」＝「自律型人材」であり、地域やお客さまの多様な課題を自ら率先して発見し、その解決に向けて主体的に行動する人材が求められています。当社では、このような社員像の構築に向けて、自己の能力開発に積極的に取り組む人を応援するプログラムを提供しています。

一人ひとりが能力をフルに発揮し、
わくわくできるような
職場づくりを推進していきます。

私たちは、社員が
個人として尊重され、

通信教育(CAPA)

自己啓発のための通信教育(CAPA)では、仕事に役立つ知識や資格取得など、たくさんのコースが用意されています。仕事に役立つ内容のコース修了者には、受講料の50%～80%を援助するなど積極的に奨励しています。2006年度の受講率は50.3%となっており、毎年半数を超える社員が受講しています。



通信教育(CAPA)

■教育体系図

区分	管理職	監督職	一般職
対応職位	本部 部長職	課長 職	チーム リーダー
役員	本部 部長職	課長 職	チーム リーダー
階層別	エグゼクティブ ミーティング	部長研修 所長研修	監督職研修
	部長研修	課長研修	監督職研修
	新任管理者研修		
	人事考課者研修		
	財務研修		
			新入社員研修
社内集合研修教育訓練			
管理			職種別スキルアップ研修
			スタッフ研修
製造			品質管理・安全衛生研修
営業			CWW研修
			CWC研修
			販売基礎研修
			売場創り研修
			ACP研修
			チームリーダー研修
共通			企業倫理・CSR・環境教育
			通信教育(CAPA)
			パソコン教育
社外派遣研修			
人材育成研究会	SMC研修		
	MC研修		
		BMC研修	
研修部	本部長研修		
	上級幹部社員研修		
	営業企画セミナー		

主体性をサポート

特別表彰制度

特別表彰は、優秀な業績をおさめた部署または個人に対して実施しています。そのほかにも「企業市民として社会に貢献する」という社員行動規準のもと、プライベートでのボランティア活動などによって、地域社会に貢献した個人に対しても表彰を行っています。

社員のライフプラン実現のために

社員の相互扶助や共済を目的とした「社員共済会」を設け、金銭の給付や貸付を行っています。このほかにも結婚・持家取得・子どもの教育・充実した老後など、必要な資金の計画的蓄えを援助することを目的とした「財形貯蓄制度」、さらに将来の財産形成のための「社員持株会制度」など、社員一人ひとりのライフプランの実現を支援しています。

安心して働ける職場環境

休業支援の取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業制度」を設けています。さらに2007年1月からは育児・介護休業法を上回る制度として、1日の所定労働時間を最大3時間短縮できる「育児短時間勤務制度」を導入しています。また、社員の私傷病による休業に備えて、年次有給休暇とは別

に「私傷病休暇制度」を設けるほか、「半日年休取得制度」などを設け、安心して働ける休業支援体制を実現しています。

安全衛生の取り組み

毎月1回、すべての事業所において「安全衛生部会」を開催するほか、札幌工場において労働安全衛生マネジメントシステムを導入しています。また、年1回安全運転管理者教育を実施するなど、労働安全衛生について積極的な活動を展開しています。

健康管理の取り組み

年1回の健康診断をはじめ、30歳以上の社員を対象にした生活習慣病予防検診、歯科検診と保健師による巡回健康指導、メタボリックシンドロームの改善・予防を目指した「健康づくりチャレンジ」のほか、健康診断と生活実態に基づくヘルスアセスメントを実施し、社員一人ひとりの健康保持・増進を図っています。



腰痛予防の取り組み

スポーツ医学に基づく腰痛予防体操をはじめ、年2回のスクリーニングテスト、年1回の体力測定と巡回指導などを実施し、社員の腰痛予防に積極的に取り組んでいます。

企業としての信頼性を高めるために。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

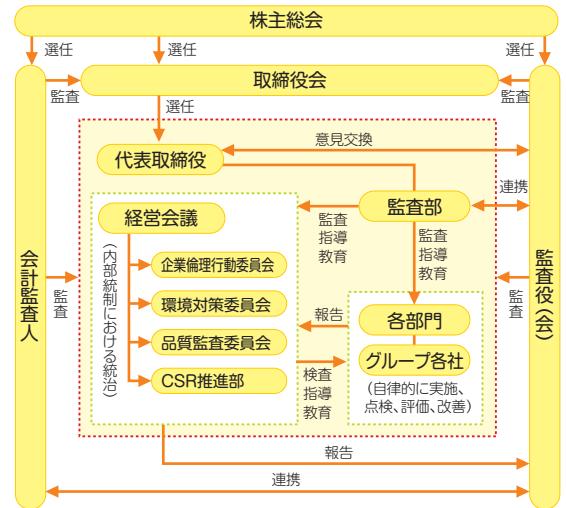
企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけており、このことが企業価値の向上に不可欠であると認識しています。その実現のために、お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)との良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務執行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図られるよう努めています。

私たちは企業組織としての
モラルを向上し、
地域のみならずまごころ
信頼される企業となることを
目指します。

ガイドラインの策定とコーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンスに関するガイドラインとして、取締役を含めた社員一人ひとりの行動規範「DNPグループ行動憲章」「北海道コカ・コーラグループ社員行動規準」を制定しています。また、総合的な内部統制の充実を図るため、2006年5月に「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を制定するとともに、「内部監査規程」等の社内諸規程の改定や、「業務の適正を確保するための体制の整備(内部統制システム)」の基本方針についての取締役会決議を行いました。

■コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



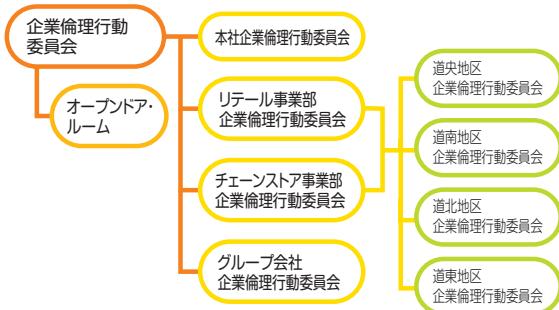
企業倫理活動への取り組み

(法および社会倫理の遵守)

私たちが、生活者やパートナーからの信頼を獲得し続けるには、日々多様化するニーズを的確に把握して「さわやかさと潤い」を追求し、そのために必要な自己変革を積極的に実践するとともに、良き企業市民として法や社会倫理を遵守して行動することが不可欠であると考えます。このため、当社では1999年に「企業倫理行動委員会」を設置し、定期的な自主点検活動とフォローアップおよび企業倫理教育・啓もうを行っています。

オープンドア・ルーム

社員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として「オープンドア・ルーム」を開設し、相談体制の充実を図っています。オープンドア・ルームへ相談した社員が組織内で不利益を被ることのないよう、相談者の匿名性の確保と相談内容の機密保持には万全を期しています。



CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ会社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体としてより組織的にCSR活動を展開しています。



個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、「個人情報保護委員会」を設置し、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

グループ全社でアルコール検知器を導入

社会的責任を担う企業の一員として、あつてはならない飲酒運転を根絶するとともに、より一層の安全運転の向上を図るため、2007年1月からグループ全社でアルコール検知器を導入し、法定基準(0.15mg/ℓ未満)よりも厳しい基準(0.05mg/ℓ未満)で運用しています。毎朝二人一組でアルコール検知を実施し、安全運転管理者が全員のチェックが完了したことを確認しています。



毎朝、アルコール検知を実施

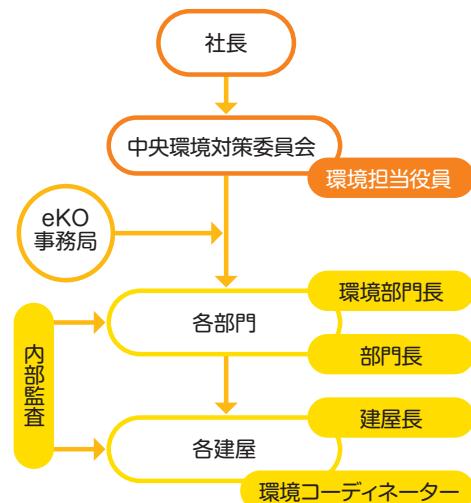
地球環境の明日を見つめて。

環境への取り組み

当社の環境理念・環境行動指針をより積極的に実践するために、2003年より「eKO（イー・ケー・オー）システム」を本社・札幌工場、2005年からは営業部門で運用



を開始しました。eKOシステムとは、環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001や英国の規格であるBS7750等を参考に、コカ・コーラシステムのために設計された独自のシステムです。



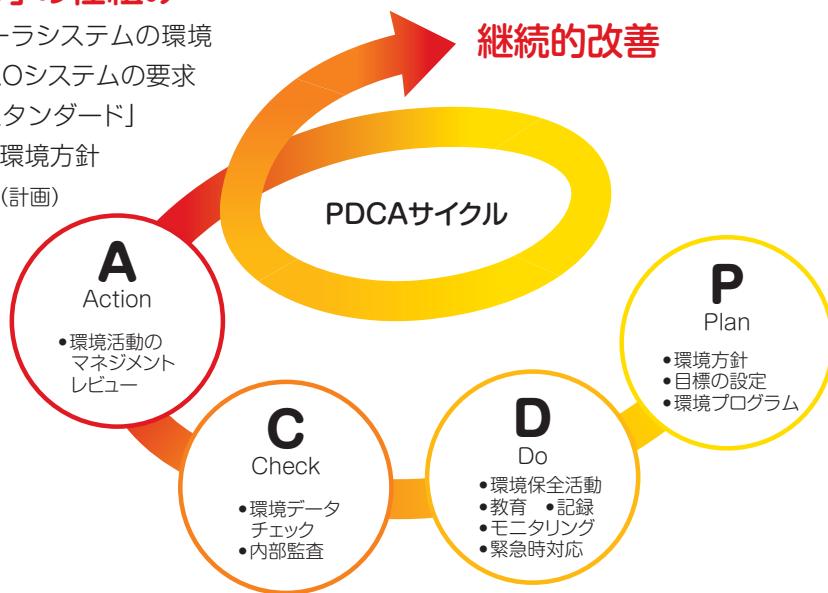
北海道の美しい自然を愛する企業市民として、独自の環境マネジメントシステムで環境経営を実現していきます。



「PDCAサイクル」の仕組み

eKOシステムは、コカ・コーラシステムの環境理念と環境方針のほか、eKOシステムの要求事項等を規定した「eKOスタンダード」を中心として構成されており、環境方針に基づいた業務活動の「Plan（計画）」

－Do（実行）－Check（点検）－Action（見直し）をひとつのサイクルとして、これを繰り返し行い、環境に与える影響を特定して、継続的に改善する仕組みとなっています。



eKOシステムで 3つの負荷低減を目指します

eKOシステムでは、清涼飲料業界の主な環境負荷である3つの項目を中心に、さまざまな環境改善プログラムを実施します。



水の使用量

水の有効利用に取り組むとともに、排水量を削減します。



エネルギー使用量

エネルギー利用の効率化を図り、CO₂などの大気への排出量を削減します。



廃棄物発生量

原材料使用量を適切に管理し、廃棄物の削減・再資源化も推進します。

※eKO（イー・ケー・オー）の名前の由来：
ニューヨーク証券取引所におけるザ・コカ・コーラカンパニーの呼称“KO”に“environment（環境）”の頭文字を組み合わせて名づけました。

環境理念

北海道コカ・コーラボトリング株式会社は、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した企業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

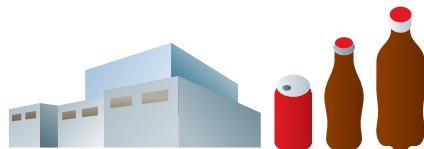
1. 環境関連法規、規制、条例、地方自治体との協定を遵守します。
2. 企業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進します。
3. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
4. 環境に配慮した物品の購入（グリーン購入）を促進します。
5. 飲料容器の散乱防止の啓もう活動を行うとともに、地域社会の環境美化活動を支援します。
6. 環境保全に対する全社員の意識向上を図り、全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。

生産からリサイクルまでの流れ[事業プロセスごとの環境負荷]。

事業プロセスごとの「投入量」(INPUT)と「排出量」(OUTPUT)を
集計する部門はSUSTAINABLE DEPARTMENT
環境に負荷を与えないよう、さまざまな取り組みを
積極的な環境保全活動を行っています。



INPUT



水	1,253 千m ³
電気	16,035 千kWh
天然ガス	4,982 千m ³
原材料	45,975 t

製品をつくる水、原材料、
製造工程で使用する
エネルギー

INPUT



ガソリン	527 kℓ
軽油	3,290 kℓ
天然ガス	2.9 千m ³
LPG	54.3 千m ³

製品の配送や営業活動で
使用する車両燃料

製造 (187千kℓ)

車両

OUTPUT

 水	1,066 千m ³
 CO ₂	17,111 t
 NO _x	5.9 t

 廃棄物 4,678 t

OUTPUT

 CO ₂	10,172 t
 NO _x	64.9 t
 SO _x	2.8 t

ゼロエミッション (リサイクル率100%)

※集計方法については34Pをご参照願います。



びん・缶・ペットボトルの
リサイクル

INPUT



水	22 千m ³
電気	6,299 千kWh
灯油	492 kℓ
重油	329 kℓ
天然ガス	267 千m ³
LPG	0.1 千m ³

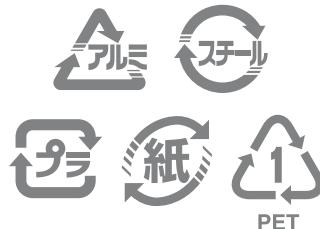
事業所、オフィス、物流倉庫で
使用するエネルギー

INPUT



電気 124,810 千kWh

自動販売機が
使用するエネルギー



回収・ リサイクル

空容器
回収・リサイクル量
741t

ダンボール
回収・リサイクル量
1,262t

管理・営業

自動販売機

OUTPUT

水	22 千m ³
CO ₂	5,324 t
NOx	1.8 t
SOx	2.9 t

OUTPUT

CO₂ 52,545 t
(発電に伴う排出)

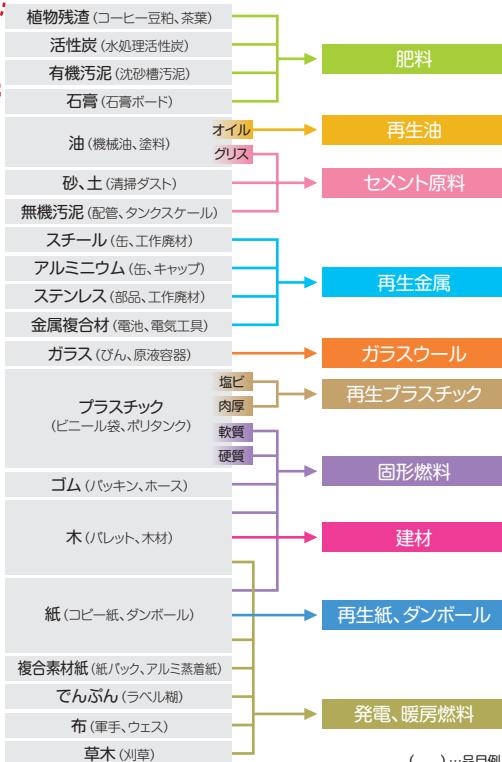
リサイクルによる環境保全活動。

札幌工場で「ゼロエミッション」を達成

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年11月末時点で目標を100%達成しました。今後も、「ゼロエミッション」活動を継続していきます。

私たちが容器の回収をはじめ、廃棄物や自動販売機のリサイクルなどを通して、環境負荷の少ない循環型社会の実現を目指します。

リサイクル内容 廃棄物



自動販売機のリサイクル

2006年度に耐用年数の経過等により廃棄した自動販売機などの販売機器は、約7,200台です。廃棄する自動販売機は、金属・非金属などに分別され、資源化・埋立て・焼却などの処分を受けます(下図を参照)。この結果、現時点では金属類を中心に自動販売機の85%~90%がリサイクルされています。また、廃棄される自動販売機は、フロンを自社グループで回収し、適正に処理しています。

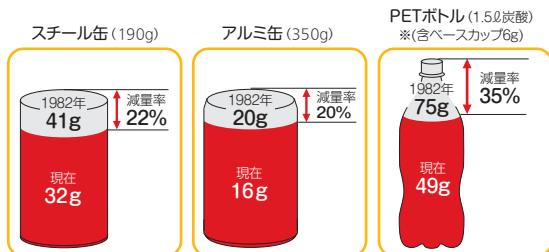


※フロンへの対応

オゾン層に影響を与える特定フロン(CFC)や代替フロン(HCFC)を冷媒として使用する自動販売機の新規導入を中止し、オゾン層にまったく影響を与えないフロン(HFC)への切り替えを進めてきました。さらに、フロンを使用しない環境にやさしいノンフロン型自動販売機の導入を進めています。

容器の軽量化とリサイクル

コカ・コーラシステムでは省資源化を目指して、下記容器等の軽量化を進めています。



回収された空容器は「材質表示マーク」によってリサイクルが推進され、2005年度の国内における容器別リサイクル率は次の通りとなっています。

スチール缶	88.7%	スチール缶リサイクル協会
アルミ缶	91.7%	アルミ缶リサイクル協会
PETボトル	65.6%	PETボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん ※カレット利用率	91.3%	ガラスびんリサイクル促進協議会

リサイクルPET素材のラベルを採用

コカ・コーラシステムでは、PETボトルのリサイクルを促進するために、2005年に清涼飲料業界で初めてリサイクルPET材料を10%混合したラベルを採用しました。さらに、2007年3月からは、混合比率25%の新しい環境配慮型PETラベルを「からだ巡茶410mlPET」に採用しています。なお、当ラベルはPETボトル協議会が認定を行うPETボトルリサイクル推奨マークを飲料用PETラベルとして日本で初めて取得しました。



紙カップのリサイクル推進

2000年9月、カップ自動販売機で使用済みとなった紙カップを回収ルートを通してトイレトーパーに再生し、それを本社で使用するリサイクルルートを確認しました。

再生品の使用促進 【グリーン調達・グリーン購入】

- 当社のユニホームには、PET再生繊維（ポリエステル）を53%以上使用しています。
- 空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックで作成されています。
- 2000年より、パソコンプリンターに使用するトナーカートリッジの再生・再利用に取り組んでいます。
- 文具・事務用品および名刺は、再生品などの環境面に優れた製品を積極的に購入しています。



北海道のきれいな空気と水を求めて。

北海道のきれいな「空気」を守るために

1) 省エネ自動販売機の導入

1991年より、当社では蛍光灯の調光機能をはじめ、夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットするピークカット機能や冷却効率を大幅に向上させた「省エネ自動販売機（エコベンダー）」を積極的に導入。現在は91年型機に比べ、さらに50%の省エネを実現したエコベンダーが全稼働台数の約95%を占めています。

2) エコドライブの推進

車両から排出される二酸化炭素（CO₂）、粒子物質（PM）、窒素酸化物（NO_x）などの汚染物質の削減に向けて、当社グループ全体でエコドライブの推進および車両燃料の削減に取り組んでいます。

3) クリーンエネルギー車の導入

地球環境の保全に貢献するクリーンエネルギー車を導入し、採用の拡大に向けて性能等の確認を行っています。LPG車・ハイブリッド車・天然ガス車など、いずれも二酸化炭素・粒子物質・窒素酸化物等の大幅な排出削減が期待されています。



ハイブリッド車

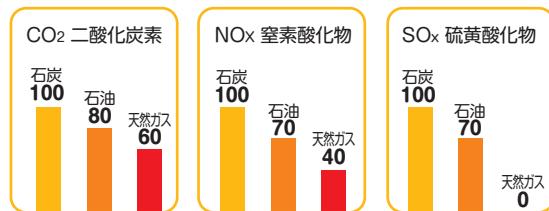
LPG車	1998年6月より導入	5台
ハイブリッド車	2000年2月より導入	3台
天然ガス（CNG）車	2001年6月より導入	1台

人が生きるうえで「空気」と「水」は必要不可欠な資源です。今、このかけがえのない資源を大切に使用し、環境への負荷を少なくするために求められています。



4) ボイラー燃料に「天然ガス」を使用

地球温暖化防止など、当社の環境対策の一環として、札幌工場のボイラー燃料をA重油から不純物を含まないクリーンな「天然ガス」に切り替えました。既存の設備を改造し、2002年3月からすべての生産設備ボイラーで天然ガスを使用しています。これによりCO₂の排出量は約30%、NO_xは約40%削減され、SO_xは排出ゼロとなりました。



5) ペットボトルの自社成形による輸送量の軽減

製品に使用するPETボトルは、従来、ボトルメーカーで成形されたものを札幌工場まで輸送していましたが、2002年に新設されたアセプティックラインのボトル成形機の稼働によって、主に500ml以下のPETボトルを自社でプリフォーム（PETボトルの原型）から成型することが可能となりました。約8分の1の容積のプリフォームを運ぶことで輸送効率が向上し、大気への環境負荷が大幅に削減されました。



クールビズ・ウォームビズを実施

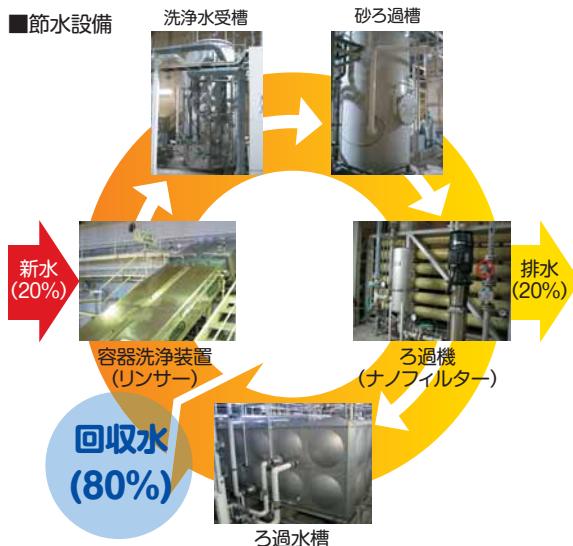
当社は、環境省の地球温暖化防止に向けた取り組みとして、オフィス室温を夏季は28℃、冬季は20℃とする「クールビズ」「ウォームビズ」を全社にて実施しています。本社では年間発生するCO₂の量を約120t (25%) 削減することができました。また、冬季間の暖房が欠かせない北海道独自の取り組みとして、「暖房に頼りすぎない冬の暮らし」を目指し北海道および関係機関が推進している「北海道ウォームビズ・プロジェクト」に、企業として参加宣言しています。



北海道のきれいな「水」を守るために

1) 水使用量の削減

当社にとって水は最も重要な原材料であり、また貴重な資源です。札幌工場では2003年、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水、アセプティックPETラインのユーティリティ冷却水などを循環利用するために節水設備（図参照）を導入しました。これにより、約2,400トン/日（20時間稼働時）の節水が可能になりました。



2) 工場排水処理

札幌工場では、排水を処理施設にて処理したのち、国の排水基準を満たしていることを確認し河川へ放流します（一部は公共下水道を使用）。この排水処理システムは「ラグーン処理方式」と呼ばれるもので、自然界における微生物の自己浄化サイクルを利用しています。

■排水処理施設



効果的な環境保全活動を継続しています。

環境会計

2006年における当社環境保全活動の結果を環境会計（環境省ガイドライン参考）で表しました。

環境保全コスト

廃棄物の分別の推進とあわせ収集運搬委託費用の見直しを進めたことにより、資源循環コストが減少しています。また「わくわく体験ランド北海道（35P参照）」の開催とCSRレポート発行などにより、管理活動コストは増額となっています。

環境保全効果

工場生産数の増加に伴いCO₂排出量・井水使用量が増加しましたが、省エネ自動販売機の積極導入による消費電力の削減やエコドライブと配送の効率化による車両燃料の削減などにより、CO₂の総排出量を低減することができました。

今後も環境への負荷を低減するため、効果的な環境保全活動を継続していきます。

環境保全活動に係わるコスト
および効果を把握し、
環境保全活動を効果的に推進しています。

環境保全コスト

単位:千円

項目	主な取り組みの内容	2005年		2006年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト	計	46,600	147,435	29,000	137,916
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	46,600	40,937		49,789
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他		43,211	29,000	35,568
	自動販売機のフロン回収・破壊		19,421		14,622
	低公害車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)		398		557
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル		35,145		31,113
	自動販売機の処理・リサイクル		8,323		6,267
2. 上・下流コスト	計		79,263		76,648
	空容器の回収・リサイクル		35,023		35,081
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋		44,138		40,956
	再商品化委託費 他		102		611
3. 管理活動コスト	計		18,561		30,261
	環境負荷の測定		18,377		22,322
	eKOシステム構築・運用、環境コミュニケーション		184		7,939
4. 社会活動コスト	計		4,373		4,750
	業界団体活動、環境支援活動 他		3,269		3,697
	本社構内緑化保守		1,104		1,053
	合計	46,600	249,632	29,000	249,575



効果1 環境保全効果

項目	単位	2005年	2006年	増減率(%)	
計	t-CO ₂	87,626	85,153	-2.8%	
CO ₂ 排出量	製造	15,251	17,111	12.2%	
	自動販売機	56,708	52,545	-7.3%	
	管理・営業	5,286	5,324	0.7%	
	車両	10,382	10,172	-2.0%	
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,901,469	1,842,555	-3.1%	
NOx排出量	燃焼設備	t	7.1	7.8	9.4%
	車両	t	66.2	64.9	-2.0%
SOx排出量	燃焼設備	t	3.6	2.9	-20.3%
	車両	t	2.9	2.8	-2.0%
井水使用量	t	1,146,493	1,262,250	10.1%	
上水使用量	t	15,300	13,359	-12.7%	
工場排水COD排出量	t	10.4	12.1	16.3%	
工場排水BOD排出量	t	1.4	2.8	100.0%	
工場廃棄物発生量	t	4,766	4,678	-1.8%	
自動販売機など販売機器の廃棄台数	台	7,601	7,204	-	
フロンガス回収・破壊量(廃棄時回収)	kg	2,182	1,598	-	

※販売数量比(2006/2005) = 0.961 生産数量比(2006/2005) = 1.106

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	単位	2005年	2006年
リサイクルにより得られた有価物の売却額 (自動販売機筐体、缶、PET、プラスチック、古紙等)	金額(千円)	21,996	21,145

<集計方法について>

当年(2006年)より集計方法(集計範囲・算出方法等)の一部見直したため、過年度(2005年)数値を変更しています。

- ・CO₂は電力・燃料より、NOx・SOxは燃料より算出しています。
- ・燃料由来のCO₂排出量は「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- ・電力由来のCO₂排出量は環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・NOxは環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・SOxは燃料の組成より理論値を計算し算出しています。
- ・自動販売機の電力使用量を集計範囲に含めています。
- ・管理・営業の項目には物流倉庫の数値を含めています。
- ・車両の項目には当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。

広がる環境コミュニケーション。

コカ・コーラ環境教育財団

コカ・コーラ環境教育財団は、コカ・コーラシステムの「企業市民として地域に貢献する」という企業理念を環境教育・環境保全の分野で実践するために設立されました。1994年の設立以来、毎年環境関連分野に携わる人びとへの啓発・支援活動を行っています。

2006年（第13回）コカ・コーラ環境教育賞受賞団体（北海道地区）

■奨励賞

- 旭川市立台場小学校（旭川市）

■主催者賞

- 茨戸川環境市民フォーラム（札幌市）
- 札幌市立中の島児童会館子どもエコクラブ（札幌市）
- 特定非営利活動法人冒険クラブ（札幌市）
- 最上エコたんけん隊（小樽市）
- 特定非営利活動法人当別エコロジカルコミュニティー（当別町）



私たちは「環境」を
テーマにした地域とのさまざまな
交流を通して、地域の環境活動に
参加していきます。



「わくわく体験ランド北海道」

コカ・コーラシステムでは、環境分野における社会貢献活動の一環として、特に水資源保護活動を目的とした「森に学ぼう」プロジェクト（後援：環境省、林野庁）をスタートしました。当社では2006年10月14日、当別町道民の森にて「わくわく体験ランド北海道」を開催し約80名の親子が300本の木々に「コカ・コーラの森」に植樹するとともに、ネイチャーゲームを通じて「自然とふれあうことの楽しさ」や「自然とふれあいながら人と交流することのよろこび」を当社スタッフと一緒に体験し、楽しんでいただくことができました。この取り組みは、5カ年計画で活動を展開します。



エコライフ宣言に参加

2006年8月、札幌市が主催する「さっぽろエコライフ10万人宣言」に、市内の当社グループの1,100名を超える社員・家族が参加しました。2007年3月には、この宣言への参加および当社の環境への取り組みが高く評価され、上田札幌市長より表彰を受けました。



「さっぽろエコライフ10万人宣言」表彰式

環境キャンペーンへの参加

毎年8月に開催される「環境広場さっぽろ」に出展し、2006年は当社ブースへ1,500名を超えるお客さまにご来場いただきました。また、各地で開催される環境シンポジウム等にも積極的に参加し、当社の環境への取り組みを紹介するとともに、みなさまからいただいた貴重なご意見・ご提案をその後の活動に活かしています。

このほか、環境省では2003年より実施している「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」の一環として、2006



環境広場さっぽろへの出展風景

年6月18日(日)の夜を「ブラックイルミネーション2006」と題し、夜間の2時間、ライトアップ施設などの電気を一斉に消すことを広く呼びかけています。当社もこの取り組みに参加し、札幌すすきのにあるコカ・コーラのネオンサインを消灯しました。



環境美化活動を推進

網走営業所では2006年10月、知床斜里町観光協会主催の世界遺産に登録された知床地区の美化運動に参加しました。また、函館営業所では2006年9月、函館市主催のボランティア清掃のお手伝いと「ポイ捨て防止」を呼びかける「クリーン・ウォーキング作戦」に参加。このほかにも、安全衛生活動の一環として、各事業所では毎月周辺地域の清掃ボランティア活動を実施しています。



知床地区の美化活動



事業所周辺の清掃活動

北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

エピソード

沿革

1963年	1月	北海道飲料株式会社として設立
	3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
	9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
	12月	本社工場竣工（製品第1号誕生）
1965年	10月	コカ・コーラ250ml缶の販売を開始
1966年	4月	コカ・コーラホームサイズ（500ml）の販売を開始
1967年	12月	本社工場に第2ラインを増設
1970年	3月	本社工場に第3ラインを増設
1971年	5月	本社工場に第4ラインを増設
	10月	スプライトの販売を開始
1972年	2月	コカ・コーラ350ml缶の販売を開始
		第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援
	11月	本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始
1973年	4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更
	8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場
1976年	4月	ジョージアコーヒーの販売を開始
1982年	4月	機能性飲料リアルゴールドの販売を開始
1983年	5月	スポーツ飲料アクエリアスの販売を開始
1988年	10月	本社ビル竣工（創立25周年記念事業）
1991年	4月	カナダドライジンジャーエールの販売を開始
1992年	3月	ティー飲料紅茶花伝の販売を開始

これまで、これからも、私たちは北の大地の人びとをつるおす、
なまなま事業活動を展開していきます。



1994年	3月	ティー飲料爽健美茶の販売を開始
1998年	3月	ティー飲料煌の販売を開始
1999年	5月	創業以来10億ケースの販売を達成
	7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
	11月	果汁飲料Qoo(クー)の販売を開始
2001年	6月	紙パック製品（プリパック）の販売を開始
2002年	5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
	11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
2003年	1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
2005年	1月	調達・製造・物流の一元化を図る「コカ・コーラ ナショナルビバレッジ株式会社」が本格稼働
		本社工場を札幌工場に名称変更
	3月	札幌工場リニューアル
	6月	ティー飲料ー（はじめ）の販売を開始
2006年	3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラ プロダクツ株式会社」を設立
	5月	コカ・コーラ生誕120周年
	9月	北海道限定製品「じょうずに野菜 北海道ミルクと野菜」 の販売を開始

企業集団の財産および損益の状況の推移

区分	第43期 (2004年)	第44期 (2005年)	第45期 (2006年)
売上高	76,791 百万円	76,451 百万円	74,121 百万円
経常利益	1,308 百万円	156 百万円	665 百万円
当期純利益	△ 1,346 百万円	111 百万円	88 百万円

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO., LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 北島 義俊 代表取締役社長 角野 中原 代表取締役常務 松本 肇
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (総務部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	581名(グループ1,282名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造 および販売並びに食品等の販売
事業所	本社、札幌工場、支店(6)、営業拠点(27)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部 札幌証券取引所

グループ会社の概要

幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、 一般貨物輸送、倉庫業
北海道飲料株式会社	ミネラルウォーター他清涼飲料の製造
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、 書籍等の販売、クリーニング業、清掃業等
北海道ベンディング株式会社	自動販売機のオペレーション業務
北海道マシンメンテナンス株式会社	各種自動販売機の修理、 設置および撤去
北海道ピラレッシサービス株式会社	自動販売機による飲食食品等の 販売
北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	コカ・コーラ社製品の製造、 飲料水容器の製造

編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2007」は、当社グループのCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみならず皆様からご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。本レポートは、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」とGRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」を参考にしました。

[対象期間]

2006年1月1日～2006年12月31日。実績データは2006年度、活動内容の一部は2007年度も含まれます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社が対象です(「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL (011) 888-2135 [CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

ボクはクマガラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物が豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
この報告書では、
北海道コカ・コーラボトリングの想いを伝える
ナビゲーターとして活躍してるよ。



古紙配合率 100%再生紙を使用しています



本レポートは、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しています。

2007年6月発行

次回は2008年5月の発行予定です。

COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージアは The Coca-Cola Companyの商標です。

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2007」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

Q1 このレポートについての評価をお聞かせください。

●内容の充実度	<input type="checkbox"/> 充実している	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 不足している
●情報量	<input type="checkbox"/> 多すぎる	<input type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 少なすぎる
●読みやすさ、わかりやすさ	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い
●デザイン	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い

Q2 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)

[トップメッセージ] 北の大地とともに。

[プロローグ] 北海道に「さわやかさと潤い」を。

[最新トピックス] 地域の明日を見つめて。

[自動販売機ダイジェスト] もっと、お役に立つ自動販売機へ。

[地域社会への貢献]

地域とのふれあいを大切に。

地域のこころを結んで。

地域にさわやかな笑顔を。

[お客さまの満足]

安全と安心をお届けするために。

「わくわく」を、もっと身近に感じてほしい。

さわやかさをお届けするために。

[社員との対話] 風通しがよく達成感のある企業風土づくり。

[企業スタンス] 企業としての信頼性を高めるために。

[地球環境への取り組み]

地球環境の明日を見つめて。

生産からリサイクルまでの流れ。

リサイクルによる環境保全活動。

北海道のきれいな空気と水を求めて。

効果的な環境保全活動を継続しています。

広がる環境コミュニケーション。

[エピローグ] 北海道コカ・コーラボトリングのプロフィールです。

Q3 どのようなお立場でお読みになられましたか？

<input type="checkbox"/> お客さま	<input type="checkbox"/> お取引先	<input type="checkbox"/> 株主・投資家
<input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者	<input type="checkbox"/> 行政関係	<input type="checkbox"/> NGO/NPO
<input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族	<input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方	<input type="checkbox"/> 学生
<input type="checkbox"/> 研究・教育機関	<input type="checkbox"/> 報道関係	
<input type="checkbox"/> その他()		

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

.....

.....

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 FAX(011)883-0249



011-883-0249

